

10月12日、9組有志の会

宮原 豊 (9組)

しばらくカラオケから遠ざかって禁断症状を催した丸山隆平君の訴えで集まりました。お互いにいつまで生きているかわかりませんから、急遽集まりました。たった4人で西新橋クラブLのカラオケ部屋(10人定員の大部屋)を占領して、午後5時から7時半まで、歌った時間は2時間もなかったが、十分に歌うことが出来ました。

丸山君は十八番のすぎやまこういちと小林旭の両輪で相変わらずの隆平節、おぼつかなくなつた足元とは見違えるように、声量・リズム・音程とも昔のまま。昔はカラオケを歌わなかった保屋野良治君が最初から「今日は歌いたい歌がある」と積極的で、帰る時には「歌いたかった歌が歌えて満足、次回のためにもっと練習します」とのこと、本当によかったよかったです。また何でもござれの名人牧野泉君も、歌うのは何年ぶりとか言いながら(そんなことはないよね、きっと)相変わらずの美声で年齢を感じさせません。宮原はほぼ2年半振りのカラオケ、酔いに任せて喉をうならせました。ここに欠けているのは西村賢治応援団長。彼はこの年齢になっても仕事や近所の老人会のカラオケにと毎日超忙しくて予定を組むのが難しそうだと最初から声かけを遠慮しました。塚田道明君は同居する孫が受験生だからコロナが心配、赤尾晴夫君は家族のコロナで急遽キャンセル。コロナは先行きが必ずしも長くない我々世代には影響大です。また、9組がいつも何だかんだとお世話になっている65期代表幹事・上原昇君(2組)や顧問弁護士・櫻田喜貢穂君(7組)は日程が合いませんでした。

今回コロナの時代には4人がちょうどよかったです。気の置けない高校同級生だから、他人が聞いたら驚くような毒舌が飛び交っていますが、これは昔のままの愛情表現か?亡くなった同級生(栗原剛君や小林康人君等)を偲びつつ、やっぱ生きてる方が楽しい、こうして生きているうちにまたやりましよう、気持ち5歳は若返ったかなあ、好い命の洗濯となりました。次はコロナの様子を見つつ、落ち着いた頃に9組の拡大同級会を開催したいと思います。65期同期会はいつ頃になるのでしょうか。

写真は真ん中にお店のママさん、ほぼ同じ年歳です。いつもありがとうございます。



左から宮原、丸山、一人置いて牧野、保屋野

(2022年10月13日 記)